

写真で振り返る学校給食のいま・むかし



- ①② 昭和40～50年代／市内で撮影された給食の様子
- ③ 昭和52年／市教育委員会は、全道学校給食コンクールで3年連続全道一に輝きました
- ④ 昭和56年／江戸乙を除く各学校にガス炊飯器が設置され、月2回だった米飯給食が週2回になりました
- ⑤ 昭和59年／「イワシの給食試食会」の様子(滝川第一小学校)
- ⑥ 昭和62年／保護者と一緒に楽しく給食。「親子給食」の様子
- ⑦ 平成28年／給食食材の生産者が先生となる「地産地消給食」。食材について学んだあとは生産者と楽しく給食

みんな大好き！

特集

学校給食のいま・むかし



いつの時代も子どもが大好きな「学校給食」。皆さんの記憶にも、給食の好きなメニューや思い出のエピソードがあるのではないのでしょうか。時代の変化とともに、メニューはもちろん、その給食の意味も少しずつ変わりつつあります。皆さんの思い出の味はどんな味ですか。

滝川市の学校給食の歴史

滝川市の学校給食は、昭和23年9月、滝川第一・第三小学校で始まり、当時の栄養補助給食を目的に乾燥果実、粉乳による給食が主流でしたが、翌年には温食(みそ汁)が提供されるようになりました。昭和28年には、各自で主食を持参、副食は学校が提供するとなり、昭和29年6月に完全給食(週5回の給食)となりました。

昭和30年10月には滝川第一小学校裏の市有地に全国でも珍しい学校給食用製パン工場が設立され、同年に滝川第二小学校で、翌年には西小学校と東栄小・中学校で完全給食が開始、昭和32年には江戸乙を除く市内全小・中学校で完全給食となりました。

また、江戸乙地域でも昭和23年ごろから乾燥果実、粉乳による給食が始まり、昭和34年に北辰小学校で、昭和37年に東陽小・中学校で副食給食が開始されました。その後、町内の給食未実施校からも給食の要望が高まり、昭和40年に江戸乙町学校給食センターが設置され、給食が行われるようになりました。

時代とともに変わる給食

日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、昼食を持参できない貧困児童を対象に無料で提供したのが始まりです。日中戦争や太平洋戦争により昭和16年、20ごろに給食が一時中止となる時代もありましたが、学校給食は今もなお変化しながら提供されています。

皆さんの記憶にある給食は、どの時代からでしょうか。



明治22年

「おにぎり・塩鮭・菜の漬物」
日本で最初の給食です。私立忠愛小学校を建てたお坊さんが、貧困児童を対象に無料で提供しました。



昭和22年

「トマトシチュー・脱脂粉乳」
戦後の食料不足により、アメリカから無償で与えられた脱脂粉乳が給食で使われ始めます。昭和21年12月24日に東京・神奈川・千葉で給食が再開されたことを記念して、「全国学校給食週間」が制定されました。



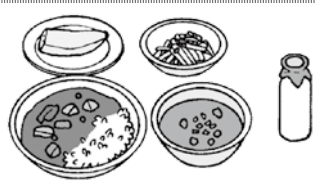
昭和27年

「コッペパン・鯨肉の竜田揚げ・せんキャベツ・脱脂粉乳・ジャム」
この時代の給食には、よく鯨肉が登場していました。



昭和40年

「ソフト麺のカレーあんかけ・甘酢あえ・牛乳・果物・チーズ」
脱脂粉乳を使ったミルクは牛乳へと変わり、昭和30年代後半には揚げパンも登場しました。



昭和52年

「カレーライス・スープ・塩もみ・果物(バナナ)・牛乳」
昭和51年に米飯給食が始まり、メニューも豊富になりました。



現在

「バラエティ豊かな給食」
地元食材を使用した特色ある給食や、郷土料理、世界の料理など豊かで恵まれた給食が提供されています。